

| | | |
|------------------|----------|------------------|
| 37.12.7 ～12.9 | 美術展 | 学法福工美術部 松浦 絃三 |
| 37.3.7 ～3.10 | 福島市教員美術展 | 福島第2小学校 渡辺 進 |
| 37.3.13 ～3.15 | 書道個展 | 市内春日町 黒森 義智 |

第3読書室

| 利用年月日 | 開催行事名 | 利用者(主催者) |
|-------------|--|------------------|
| 37.5.30 | 福大経済学部 大学祭レコードコンサ ート | 福大経済 渡辺 卓吉 |
| 7.6 | モダンジャズのタバ | 市内置賜町 本間第五郎 |
| 10.6 ～7 | 地方史研究講習会 | 県立図書館 |
| 10.29 | 全日本中学校長会分科会 | 市立第1中学校 根本小平治 |
| 38.1.27 | 読書感想発表会県北地区 発表会 | 県立図書館 |
| 毎月第3 金曜日 | ステレオレコードコンサ ート | 県立図書館 |
| | 4月20日 10月19日 5月18日 11月16日 6月15日 12月6日 7月20日 2月22日 8月17日 3月15日 9月21日 | |

特別研究室

| 利用年月日 | 開催行事名 | 主催(利用者) |
|-----------------|--------------------|-------------------|
| 37.4.3 ～4.4 | 調査事務打合せ | 教育調査研究所 大野 広平 |
| 5.9 | 学力向上施策原案作成 | 県教委学校教育課 長谷川寿郎 |
| 6.20 | 戦後の教育調査の研究に ついて | 教育調査研究所 牧野 泉 |
| 7.4 | ク | ク |
| 11.10 ～11.15 | 図書館資料による教育諸 調査 | 県教委学校教育課 六角 宏 |
| 38.2.17 | 愛犬の座談会と運営協議 | 井筒 平 |

特別参考室

| 利用年月日 | 行 事 名 | 利用者(主催者) |
|------------------|------------------|------------------|
| 37.6.10 ～6.16 | 切手展 | 郵趣会 県立図書館 |
| 6.16 | 福島動物談話会 | 動物談話会 井筒 平 |
| 7.14 | ク | ク |
| 8.11 | ク | ク |
| 8.20 | 県古代文化史展準備委員 会 | 福島県考古学会 伊東 信雄 |
| 8.24 ～8.26 | 県内小作争議資料調査 | 東京都世田谷区 長谷川正浩 |
| 9.1 | 犬のひふ病予防講演会 | 動物談話会 井筒 平 |
| 9.7 | 芸術祭実行委員会 | 県教委社会教育課 梅宮 茂 |
| 9.16 | 県古代文化史展準備委員 会 | 佐藤堅次郎 |

| | | |
|-----------|--|-------------------|
| 37.10.13 | 動物談話会 | 動物談話会 井筒 平 |
| 11.21 | 歴史研究会 | 佐藤堅次郎 |
| 毎週 金曜日 | 近世史研究会 | 福大芸史学研究室 小林 清治 |
| | 4日 1日 6日 5日 11日 6日 8日 7日 13日 18日 15日 20日 25日 22日 27日 29日 | |
| | 8日 1日 9日 7日 10日 5日 17日 14日 12日 28日 21日 19日 26日 | |
| | 11日 9日 12日 21日 1月 11日 16日 18日 29日 25日 | |
| | 2月 7日 3月 28日 14日 21日 | |

6 今後の問題点

(1) 学生、生徒の利用対策

昭和38年度は、高校進学者が急激に増加し、学校教育の分野においてもその対策に考慮を払っているが、図書館においても何等かの手を打たない限り、ますます利用者が殺到して、館内に混雑をきたし、著しく読書環境が阻害されるおそれがある。

(2) 前記にも一部ふれたが、図書館に理解を深める人々のつながりを求め、側面より図書館活動を援助してくれる集団、たとえば学校のPTAのような存在である「図書館利用者友の会」といったグループと協力して効果をたかめたい。

(3) 中、小学生室の効果的活用

本館の中、小学生室(第1読書室)は平日は午後2時頃までほとんど利用されない。最も利用されるのは、土曜日の午後と日曜日1日だけで、この空白をどう利用するかが研究を要する問題である。中、小学生を利用者の対象から除外することも一応考えられるが、市立図書館もない当市では問題があり、図書館としても中、小学生時代に読書意欲を盛りたてるように指導しないと将来まだ問題が残ることも予想される。

いずれにしても研究を要する課題である。

第4節 館外奉仕

1 読書層の開拓

37年度の努力目標の第1は、なんといっても、読書グループをもっと増やしたいということであり、第2には、バラバラに活動している読書グループを組織化すること。つまり、読書会運営協議会といったような組織を地域ごとに作れないものだろうか、ということであった。

読書グループを増やす手段としては、一応次のような